

科目名/提供大学名	福井方言と標準語／福井県立大学
科目名(英文)	Fukui district language and standard language
対象学年	1・2・3
開講時期	前期
単位数	2
科目区分	一般 選択
授業形態・開講形態	講義
担当教員名	小川 忍
オフィスアワー	授業の終了後に対応する。
教員メールアドレス	o-s1221@mx5.fctv.ne.jp
概要	福井県には、地理的または歴史的な理由から嶺北(福井・坂井)奥越(大野・勝山)、丹南(鯖江・越前)二州(敦賀・三方)、若狭(小浜・大飯)地区にそれぞれ貴重な「文化遺産」とも言える多くの方言が存在する。しかし、これらは近年の音声媒体の普及や核家族化などの影響で、徐々に失われつつある。これらの方言を歴史的背景、地域の特性を言語学的見地から若者に分かりやすく分析・解説し、伝承の礎にする。
授業目標・目的	毎日、何気なく使っている言葉だが、テレビ局のアナウンサーをしていた際、方言をTPOにうまく使いこなせば、伝えたいことがより一層伝わり、聞きたいことがより深く引き出せることを幾度も経験した。若者が意識して「方言」を検証し、正しい標準語と合わせて学習することで、それらを武器として幅のある社会人となれるよう指導する。
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)	<input type="checkbox"/> 自他の理解能力 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 情報収集・探索能力 <input checked="" type="checkbox"/> 社会・職業理解能力 <input type="checkbox"/> 役割把握・認識能力 <input type="checkbox"/> 計画実行能力 <input type="checkbox"/> 選択能力 <input type="checkbox"/> 課題解決能力
学生の目標・到達目標	数多くある福井の方言(福井弁)に関心を持ち、そのルーツや特徴、合わせて標準語との差異を理解し、楽しい言語生活の糧にしてほしい。県外の人には代表的な福井弁を理解し、コミュニケーションの場で活用願いたい。
授業計画・授業内容	第1回: アナウンス(標準語)の三要素…アクセント・イントネーション・ポーズ 第2回: 標準語と共通語の違い…放送の始まり 第3回: 方言の東西差…大きな境界線は「フォッサマグナ＝大地溝帯」 第4回: 方言こぼれ話…アクセント・ズーズー弁・方言衰退時代 第5回: アクセント雑学…名前・外来語のアクセント 第6回: 福井弁のルーツは?…日本全国の方言の文化的考察 (方言解説＝五十音順その1) 第7回: 学生による東西南北方言自慢…出身地域の方言披露 (方言解説＝五十音順その2) 第8回: 放送の歴史と放送用語の誕生…標準語の必要性 (方言解説＝五十音順その3) 第9回: 学生が選んだお国自慢の方言…福井弁を中心に (方言解説＝五十音順その4) 第10回: 接続助詞「ので、から」にみる方言の特徴 (方言解説＝五十音順その5) 第11回: 「これ標準語?方言?」…迷い多い日本語 (方言解説＝五十音順その6) 第12回: 嶺北方言における命令形…「～ね、～ま」 (方言解説＝五十音順その7) 第13回: 方言ランキング…全国版、ローカル版 (方言解説＝五十音順その8) 第14回: 福井弁の会話例…方言によるコミュニケーション (方言解説＝五十音順その9) 第15回: これからの話し言葉は?…方言と標準語の二極化 (方言解説＝五十音順その10) 第16回: まとめ…守りたい方言 (試験)
授業方法	五十音順に整理した福井方言を、順次紹介し意味や活用例などをパワーポイントを使用して解説する。
キーワード	方言コンプレックスをなくし、逆に武器として社会性に幅を持たせる。
教科書	必要に応じてレジュメを全受講生に配布します。
参考書	岩波新書、柴田 武著「日本の方言」税込定価¥735 松本善雄著「福井県方言辞典」、NHK発行「日本語発音アクセント辞典」税込¥1,796
評価方法・評価基準	平常点(20点)、レポート(30点)、試験(50点)で評価する。 レポートの課題は授業中に指示するが、方言や標準語に対する学問的追及が評価基準となる。 更に、方言調査等のフィールドワークへの積極的取り組みを考慮する。
関連科目	国語学 言語学
履修の要件	福井の方言(福井弁)に興味を持ち、標準語アクセント学習を希望の学生を対象とする。
必要な事前・事後学習	福井出身の学生には、普段使っている言葉の中で「福井方言」を、また県外出身の学生には、自分の故郷の「方言」を調査願う(レポート方式)。
その他・注意事項	講義後半に毎回質疑応答の時間をもつ。 また可能ならば地元テレビ局(福井テレビ)の局アナとの懇談会も開催する。